

ウトナイ湖のカモ いろいろ

マガモ

ウトナイ湖で見られるカモの中では、もっともふつうの種類です。オスは、あたまが緑色で、くちばしが黄色いのが特徴。黄色いくちばしをもつカモは、ウトナイ湖ではマガモだけ（メスはオレンジ色）なので、ほかのカモと見分ける時のポイントになります。水面で逆立ちをして水草などをたべています。一年じゅう見られますが、数は11月ぐらいに最大になります。



キンクロハジロ

白と黒のコントラストがめだつカモです（メスはわき腹が白くなく、全体にくすんだ色あいです）。オスには、あたまのうしろに、おさげのような長い羽毛がたれさがっています。目は黄色です。マガモやオナガガモとはちがって、水にもぐって水草や水生昆虫、小魚などをつかまえて食べます。あまり鳴かず、陸へあがることもほとんどありません。秋から冬にかけてよく見られます。



オナガガモ

ウトナイ湖で見られるカモの中では、もっとも間近に観察できる種類でしょう。ハクチョウにまじって、人からえさをもらうために湖岸に集まってくるからです。オスは尾羽がたいへん長く、めだちますが、メスは全体に色が地味で尾羽も長くありません。プリプリッとかわいらしい声でなきます。水面で逆立ちをして、水草をたべます。秋から冬にかけて見られます。



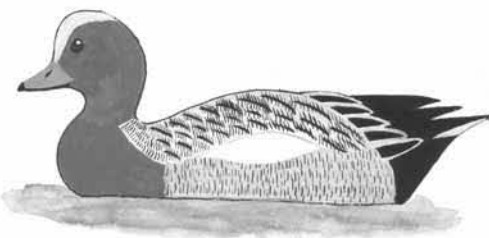
カワアイサ

ウトナイ湖で見られるカモの中では、もっとも体の大きな種類で、65cmあります。オスは頭が緑色（メスはオレンジ色）で、赤いくちばしが目立ちます。先がかぎのように曲がったくちばしを使い、水にもぐって魚をつかまえます。魚をさがすのに、水中に顔だけを入れて、泳いでいるところもよく見られます。秋から冬にかけてよく見られます。



ヒドリガモ

オナガガモのように、人からえさをもらうために集まってくるので、間近に観察できる種類です。オスは頭からむねにかけてが明るい茶色で、おでこに黄色いすじが入っています。水面で逆立ちしたり、水面にういている水草をさかんにつついて食べます。ピューンというかん高い声で鳴きます。秋から冬によく見られます。



ミコアイサ

ウトナイ湖で見られるカモのなかでは、もっともかわいい種類でしょう。オスは全体に白く、目のところに黒い斑点があり、「パンダガモ」とよばれ親しまれています。かわいい姿につかぬ肉食のカモで、潜水して小魚や水生昆虫などを食べます。秋に見られますが、数はそれほど多くありません。



カモのこんなところを見てみよう！

カモは何を食べているのか？

まさか、おかしやパンくずと答える人はいないですよね？
カモのなかまは、大きくわけて、草や種などを食べるものと、
魚やエビ、貝などを食べるものの2つに分けられます。

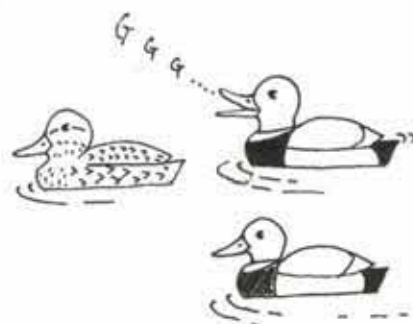
オナガガモやヒドリガモは水草をよく食べ、スズガモはエビや貝を食べます。何を食べるかによって、いる場所や食べ方がちがいますので、よく観察してみましょう。



真冬のあついたたかい・カモの求愛を見てみよう

冬、水べにはたくさんのカモのなかまたちが集まってきます。群れているのにはわけ
があります。ひとつは、結婚相手をさがすためです。カモの群れをよく見ていると、1
羽の地味な羽色のメスのまわり
に、うつくしい羽色のオスが何
羽もあつまって、おかしな動作
をしていることがあります。

これは、オスがメスに求愛して
いるところです。1～3月にか
けて、とくによく見られるよう
になりますので、どんなプロポ
ーズをしているか、観察してみ
ましょう。



カモはどこからやってくる？

日本で、冬にみられるカモのなかまたち。ウトナイ湖では、秋のわたりのシーズンのときには、おおよそ20種類ぐらいのカモのなかまを観察することができます。

カモのなかまの多くは、日本よりもずっと北のロシアのシベリアや、カムチャツカなどで夏をすごし、8月から9月ごろに、冬をこすため日本へわたってくるのです。

あなたが、今、みているカモも、きっと遠い北国から、数千キロの旅をしてきたにちがいありません。かれらが、無事に冬をこせるよう、日本の水べをいつまでもたいせつにまもっていく必要がありますね。

